

那須資料ネット

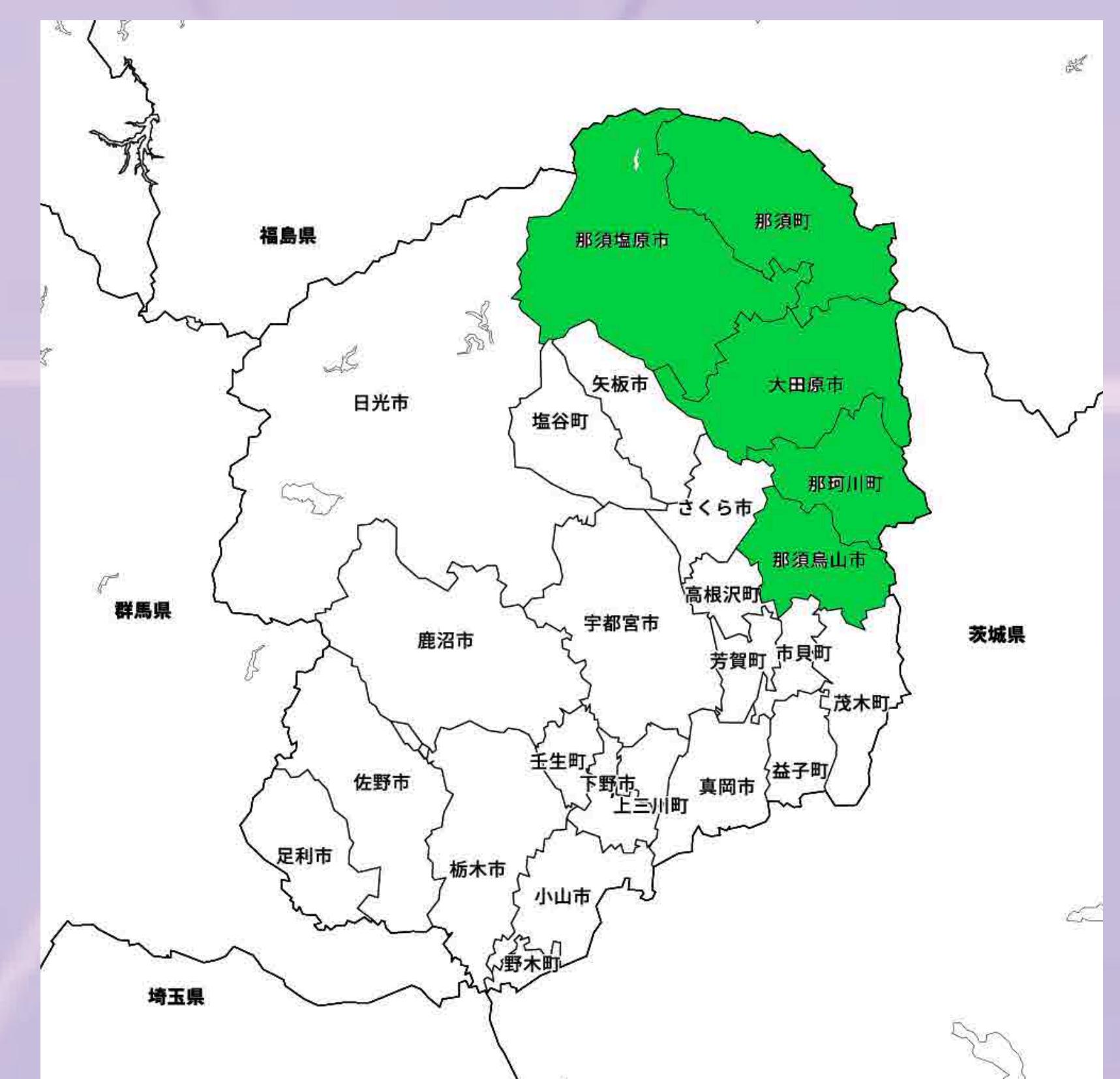
事務局

栃木県那須塩原市三島5丁目1番地（那須野が原博物館内）

コアフィールド

那須塩原市・大田原市・那須町・那珂川町・那須烏山市

2020年10月に発足した地域密着・市民主体の資料ネットです！



交流集会を実施

9月6日、県内2つの資料ネットが5周年を迎えたことから、とちぎ歴史資料ネットワーク・那須資料ネット交流集会「地域の資料を後世へつなぐ」を開催し、活動の振り返りと課題を報告・共有しました。

当会からは、金井・坂本がこれまでの那須資料ネットのワークショップ・講演会の取り組みを、山内が自身が参加した能登半島地震の被災文化財救援活動を、作間が県内市町の文化財保存活用地域計画における防災項目・所在調査状況を報告しました。



とちぎ歴史資料ネットワーク・那須資料ネット 交流集会

地域の資料を 後世へつなぐ

2025.9.6 土
13:00-16:00

場所 宇都宮大学 峰キャンパス 6号館2階 6A21教室
対象 どなたでも
主催 とちぎ歴史資料ネットワーク・那須資料ネット
後援 栃木県・宇都宮大学



お申込みは
こちらから

スケジュール	
○開会	
①第1部 両ネットの連携・協力体制の構築に向けて	①とちぎ歴史資料ネットワークの成果と課題
高山勝子（とちぎ歴史資料ネットワーク/宇都宮大学）	・紹介と活動実績 ・佐野市個人での水害史料の収集と保管報告 ・「捨てないでチラシ」について ・今後の課題
災害種別 基礎	②能登半島地震による被災文化財救援活動について
所在地 栃木県大田原市上薄葉（東北本線北側）	・山内れい（那須資料ネット/那須川町馬頭広重美術館）
伝承内容 1.に同じ	③県内市町文化財保存活用地域計画と防災体制 作間亮哉（那須資料ネット/那須歴史探訪会）
事故後の救助では、警察官・消防隊200余人が隊数に分かれ、川下20kmに亘る大搜索を実施し、臨時列車を乗せて被害者や医師・看護師救援者の輸送、現地医師団等が日々忙しく動いた。	④質疑応答
一時忌法要では、宇都宮の日蓮宗妙正寺檀家宿泊が中心になり、高さ3mほどのなる悲憤碑が建立された。（Wikipedia「駒形の鉄道記」による）	○閉会
【大田原市史 後編】には、「薄葉及び平沢の住民が発船人となって、周辺住民から浮財を募り、那須川河畔に大掛かり塔を建立した。供養塔には、墓碑委員新田伊平（薄葉）はか9名、発起人澤葉・平沢20名、多くの寄付者名、中には福島県人、老人一同、女子一同の文字もあるところから、運営者の関係性も含まれている。」とある。	

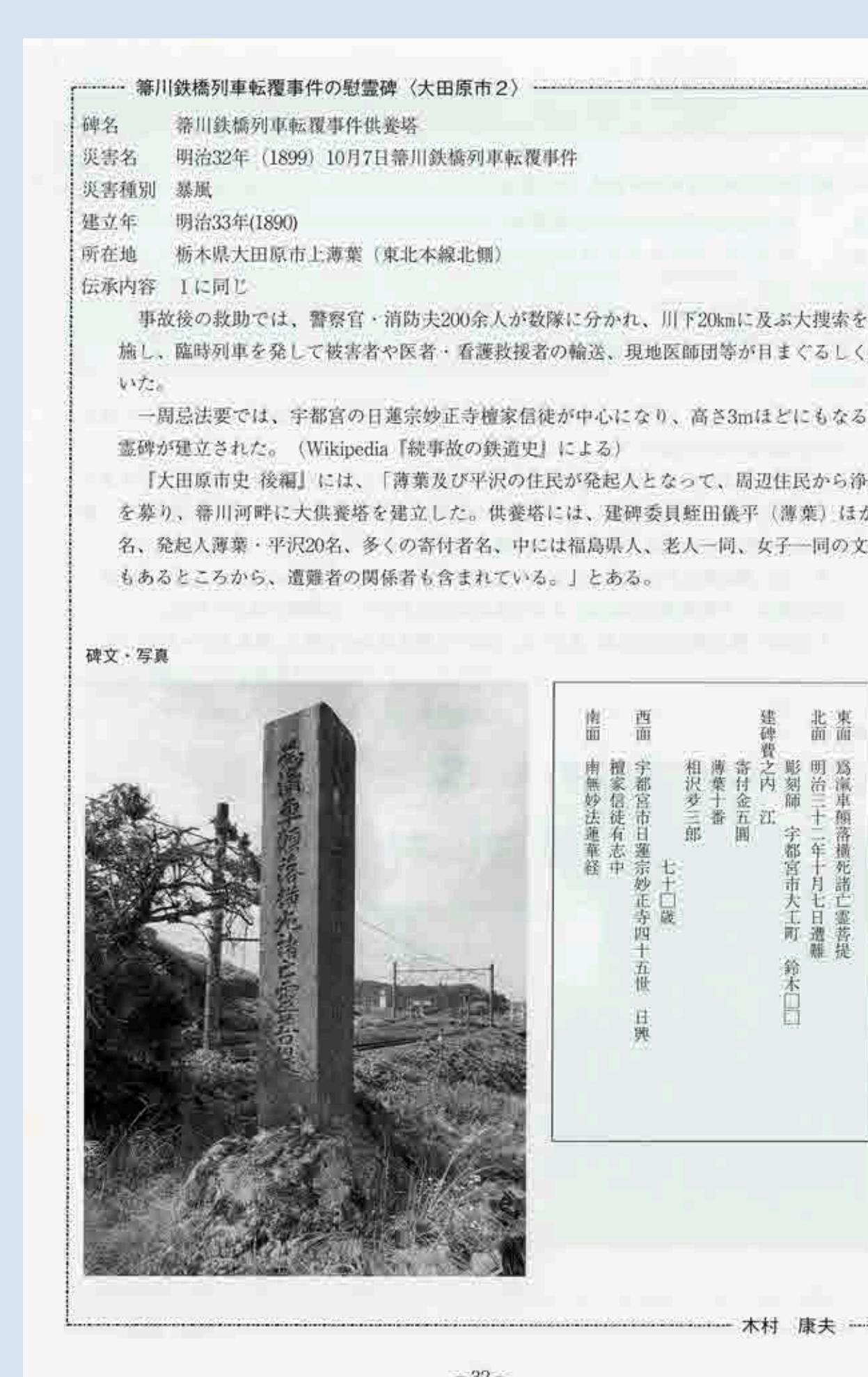
那須野が原博物館で ギャラリー展示

4月5日～20日、那須野が原博物館ギャラリーを会場に那須資料ネットや史料レスキューのパネル展示、レスキュー資材の展示を実施しました。



『那須文化研究』へ投稿

『那須文化研究』39号に、大田市の災害伝承碑(明治32年篠川鉄橋列車転覆事故・台風)3件について、紹介・碑文の翻刻を行いました。



那須資料ネットホームページ
<https://nasushiryonet.wixsite.com/website>

